

プレスリリース Julius Baer Group Ltd.

ジュリアス・ベアが『ウェルスレポート：日本』第2版を刊行

ジュリアス・ベアは、日本における富裕層の生活コストと富の創出の現況を追跡する『ウェルスレポート：日本』の第2版を本日刊行しました。本レポートでは、3年前に安倍政権が「アベノミクス」を発動して以来、日本経済は成長傾向を辿っていると前向きに捉えています。また需給構成の変化が、サービス業界をはじめ多くの業界に良い影響をもたらすと想定しています。

チューリッヒ／東京、2015年11月9日 - ジュリアス・ベアはこの度、『ウェルスレポート：日本』第2版を刊行しました。アベノミクス始動から約3年というタイミングでの刊行は、包括的な経済政策の枠組みのもとで日本経済がどれだけ進展したかを検証するには格好の機会となります。結論から述べると、私たちは反デフレ政策が奏功して日本経済は上向き、富の創出に対する期待も高まっていると考えています。日本の経済・財政構造が本格的に変わってきたことを裏付ける事例は非常に多く、新たな機会の創出や人口動態の変化への取り組みも進んでいます。

ジュリアス・ベア銀行日本市場担当責任者の Wolfgang Humbert-Droz は次のように述べています。

「この3年間、金融市場は中国経済の減速や欧州のデフレリスク対応に追われるなど大きな混乱状態が続いています。今後も課題は山積みですが、日銀による大胆な政策と各企業による制度改革の相乗効果によって日本はデフレから脱却しつつあり、国際競争力も増してきていると私たちは考えています。また観光業の急成長や就業率上昇などの新たな展開も、日本経済が本格的に持ち直してきたという見方を後押ししています」

本レポートではまず、大幅な増益や生産性向上対策に支えられて国内のサービス業界が存在感を増している現状を紹介しています。日本独特の人口動態は一般的にデフレを助長すると捉えられていますが、サービス業界の成長によりマイナスの影響は緩和されているように見受けられます。さらに、人口構造の変化に伴い国民の消費行動が変わってきたことで新たな成長機会が創出されている点を解説しています。日本が経済停滞から脱却していることを示す根拠の一つに住宅価格が挙げられます。不動産価格はアベノミクスが打ち出されて以来安定化し、地域によっては上昇しています。これが世帯の資産効果の引き上げにつながり、賃金上昇と連動することでポスト・デフレ経済への移行が促進されています。

続けて本レポートでは『ウェルスレポート』の目玉であるライフスタイル指数を取り上げます。ライフスタイル指数は富裕層に特化した消費者物価指数として、特定の高級品や高級サービスの価格を追跡するものです。東京を対象とした統計は今年で2年目です。本統計から、対象となった20品目のうち13品目については値上げ幅が同期間中の円の下落幅よりも大きかったことが分かっています。特にジュエリーや結婚披露宴の価格の上昇率はインフレ率を大きく上回りました。

ご参考までに、2015年版『ジュリアス・ベア ウェルスレポート：日本』の主なポイントを紹介します。

マクロ環境

- 日本特有の人口動態は一般的に経済成長に対する明白なマイナス要素と捉えられているが、実際には需要の変化によりサービス業界をはじめ多くの業界が恩恵を受けていると言える。
- 3年目となるアベノミクスの大胆な金融緩和により、住宅価格などの実物資産は上昇している。これによってインフレ期待が引き上げられ、デフレ経済からの脱却につながると考えられる。

Julius Baer Group Ltd.

Bahnhofstrasse 36, P.O. Box, 8010 Zurich, Switzerland

T +41 (0) 58 888 1111, F +41 (0) 58 888 5517

www.juliusbaer.com

- 日本企業はサービス業界を中心に収益面で回復基調にある。日本経済の中核を担っているのは依然として製造業界だが、今後は円安の影響を直接受けない分野での大幅な収益向上が見込まれる。
- 今後は高齢者向けサービスを育成・改善する効率的手段とされる都市化が加速すると想定され、これを引き金に新たな需要創出と経済成長が期待できる。日本の都市は飽和状態にあるという固定概念は払拭されることになる。

ジュリアス・ベア・ライフスタイル指数

- 2011年に『ジュリアス・ベア ウェルスレポート：アジア』初版を刊行して以来、ジュリアス・ベアのアナリストはアジアにおける11の都市を対象にライフスタイル指数として高級品価格を追跡してきた。ライフスタイル指数の対象品目は次のとおり：高級物件、腕時計、女性用ハンドバッグ、結婚披露宴、ワイン、ジュエリー、男性用スーツ、フェイシャル・エステ、ピアノ、ホテルのスイートルーム、自動車、歯科インプラント、病院、葉巻、弁護士報酬、ゴルフ会員権、婦人靴、ビジネスクラス航空券、大学授業料、寄宿学校授業料。
- 東京のジュリアス・ベア・ライフスタイル指数を見ると、アジアのなかでも日本の富裕層の暮らしは、特にサービス分野においてトップクラスと言える。たとえば結婚披露宴にかかる費用は米ドル換算で香港や上海を上回り、円建てでは前年から15%増加した。同様に東京の高級ホテルの宿泊料金はアジアのなかでも最高水準にある。これはインバウンド（訪日外国人）の急増に起因していると考えられる。
- アジアの他都市と比較すると、東京の各品目の価格は毎年大幅に変動している。日本経済がマクロ経済の動向にもっと迅速に適応し、高級品供給の競争が激化し、円安が続くなか、この傾向は今後数年間続くと考えられる。

結論

過去3年間の統計結果を見ると、日本経済は成長傾向にある他、デフレ経済からインフレ経済への重要な転換を遂げつつあると前向きに捉えることができます。製造業が依然として注目されがちですが、サービス業界が今後数十年にわたってより大きな役割を担っていくことができるか否かが、日本経済の需給関係が変化するなかで経済成長と富の創出を実現するうえでの鍵となります。2年目となる東京のジュリアス・ベア・ライフスタイル指数は、このように足元で起こっている動向を明らかにします。

2015年版『ジュリアス・ベア ウェルスレポート：日本』（日本語と英語併記）はwww.juliusbaer.comで閲覧可能です。

お問い合わせ

アジア メディアリレーションズ部 電話：+852 2899 4889

チューリッヒ メディアリレーションズ部 電話：+41 58 888 8888

アシュトン・コンサルティング 電話：03 5425 7220 メール：m.chuma@ashton.jp

ジュリアス・ベアについて

ジュリアス・ベア・グループ（Julius Baer Group Ltd.）は業界をリードするスイスのプライベートバンキンググループです。当グループは一流の個人のお客様を対象としたサービスや助言を提供することを業務の柱に据え、グローバル資産運用において最高クラスのブランド知名度を誇ります。ジュリアス・ベアのお客様が抱える総資産額は2015年6月末時点で3,690億スイスフランにのぼり、そのうち2,840億スイスフランが当社運用下にあります。ジュリアス・ベア銀行（Bank Julius Baer & Co. Ltd.）は2015年に創業125周年を迎えるスイスの著名なプライベートバンクであり、ジュリアス・ベア・グループの主要事業会社です。当グループはスイス証券取引所に上場し（ティッカーシンボル：BAER）、時価総額および流動性が最も高い20銘柄で構成されるスイス・マーケット・インデックス（SMI）の構成銘柄でもあります。

当グループは現在1,000人以上のリレーションシップ・マネージャーを含む5,000人を越えるスタッフを抱え、25ヵ国以上に50ヵ所を超える拠点を持っています。チューリッヒ本社他、東京、ドバイ、フランクフルト、ジュネーブ、香港、ロンドン、ルガーノ、モナコ、モンテビデオ、モスクワ、ムンバイ、シンガポールなどの主要都市に事業所を置いています。お客様第一主義、オープンな独自の運用商品基盤に基づく客観的なアドバイスを、強固な財務基盤、進取の気性に富んだ経営文化に支えられて、当グループはプライベートバンキングの国際標準として認められています。

詳しくは当グループホームページwww.juliusbaer.comをご覧ください。